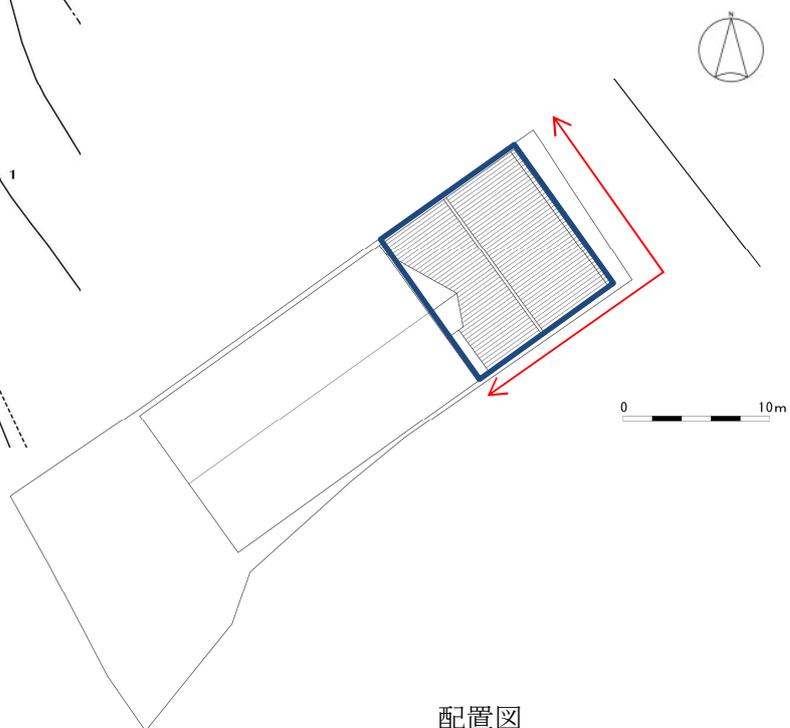
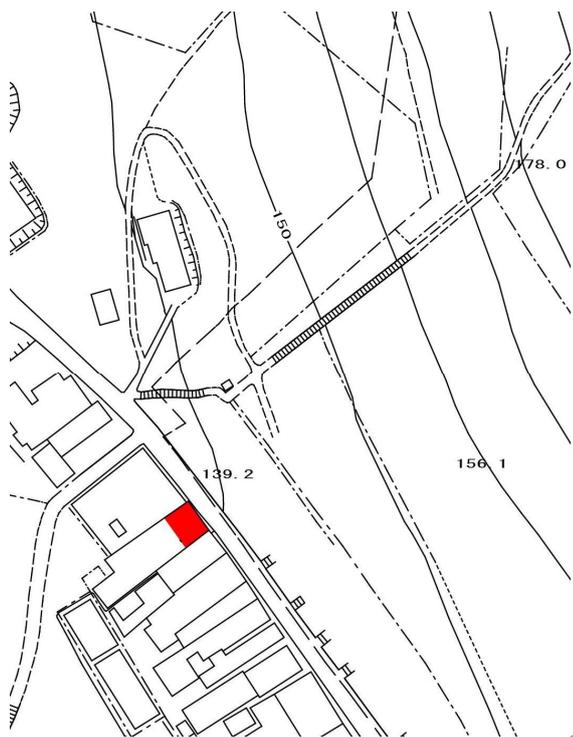


歴史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	34	名称	旧丸十物産店店舗
指定年月日	R7.1.6	所在地(指定地)	雑司町486番地の5
指定建造物	主屋	建築年代・概要	昭和27年頃 木造二階建、切妻造、平入、棧瓦葺
位置・歴史	<p>旧丸十物産店店舗は若草山麓商店街北寄りに位置する。若草山は猿沢の池と並ぶ景勝地として古くから探訪の対象であった。山麓には江戸時代に茶屋ができ、明治中頃には旅館や店が建ち並ぶようになる。そうした中でも、旧丸十物産店の敷地は戦後に至るまで緑地のまま残されていたが、昭和27年(1952)に現所有者の父が購入し、現存の店舗を建てて土産物店兼休憩所とした。青焼きの設計図が複数枚残る。昭和39年(1964)頃には後方に鉄骨造で増築し、建物面積は3倍弱程に拡大した。かつては団体客も受け入れており、最盛期には年間約30万人の利用があったという。昭和63年(1988)までは一部を住まいとしても利用していた。平成10年(1998)末からは1階での土産物販売のみの営業となっていたが、令和5年から6年にかけて実施された改修工事の完了後は宿泊施設として活用されている。</p>		
建物特徴・改修履歴	<p>若草山に向かって東面する。間口6間の正面を全て開放とし、1階は南端を戸袋とする他は腰付ガラス戸引違、2階は北端の戸袋に板戸を引込み、内側をガラス戸引違とする。2階の軒下に銅板葺の腕木庇を付ける。1階にエントランスとレストラン、2階前方にラウンジ、後方にホールとパントリーを配し、増築部に受付ホール、事務室、客室等を配する。</p> <p>1階は元店舗で、正面は板戸一本引、内部は北西隅の一面を除き間仕切のない広い土間であった。後に北3分の1を倉庫とし、正面にアルミサッシやシャッターを入れたが、令和6年に戸袋を復旧、建具を整備した。</p> <p>2階は元休憩所で、中廊下の前後に数室ずつ和室を配し、正面を縁としていた。令和6年に現状のように改修したが、ラウンジは、床を板敷とし板戸内側にガラス戸を新設した他は旧状をよく留める。元は3室の続き間で、北側の部屋に整った床・棚・書院を構え、部屋境に奈良八景などの浮彫欄間を入れ、縁先の高欄も透彫の文様で華やかに飾り、腕木庇の軒天井には網代を用いるなど、趣向を凝らす。外を眺めると若草山の景色が一面に広がる。</p> <p>改修履歴：昭和39年頃、後方増築、正面1階板戸内側に腰付ガラス戸設置。昭和後～平成初頃、1階改修（正面・内部とも）。令和6年、正面1階復旧整備、屋根葺替、内部改修等。</p>		
活用	飲食店兼宿泊施設として活用。		
価値	<p>奈良を代表する名所として知られる若草山麓には、明治以降店舗が建ち並び、多くの訪問者をもてなしてきた。旧丸十物産店店舗もその例であり、伝統的町並みを形成し、2階からの眺めも良く、社寺・名所・旧跡への探訪にみる歴史的風致の維持と向上に寄与する。</p>		



歴史的風致形成建造物 指定台帳



-  該当建造物
-  公開範囲

配置図